

平成23年度 長野県農業大学校 評価表

評価 A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	総合評価		評価
高度な専門知識、技術ならびに幅広い視野と豊かな人間性をもった、明日の農業・農村を担う優れた人材を育成する。	理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化・経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により他者との協調・自己の確立等の社会性を涵養し、21世紀の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	カリキュラムは、「コース制による専門的かつ幅広い知識・技能の修得」や「プロジェクト学習、先進的な農家研修において、農業経営の理念と実際についての習得」などに幅広く対応する実践型の編成となっている。学生に対するアンケートをみても、学びたい科目が含まれているとの回答は9割を占め、農場実習、プロジェクト実習に対する満足度はいずれも8割を超えている。学生自体の目的意識や基礎学力により習熟度に差はみられるものの、概ね目標に沿った養成が図られていると評価できる。 寮生活については、前期を1,2年同室とすることで、寮生活へのスムーズな導入、学年間の交流、連携が深められたこともあり、四県スポーツ大会において、5種目中4種目に優勝したことに現れるなど、「他者との協調、自己の確立等の社会性の涵養」について、一部指導を要する学生があるものの、ほぼ達成されていると評価できる。 なお、本年3月1日現在の総合農学科の進路状況を見ると、就農(法人就農含む。)24.5%、就職49.1%、進学13.2%となっており、「効率的かつ安定的な農業経営を担う人材養成」を目的とする本学としては、就農率の向上が今後の課題となっている。		B
	今年度の重点目標	成果と課題	改善策	評価
	平成22年度の組織改正に伴う総合農学科の統合による授業編成・農場管理等の再構築と更なる充実を図る。	同一キャンパスでの2年間通した教育環境が実現し、プロジェクト学習、専攻実習や体育等で協調して授業を実施できたが、更なる学年間の連携した授業編成が必要である。試験場から実習ハウス、ほ場、機械施設等の移管を受け、プロジェクト学習等で利用する環境が充実した。	1,2年の体育授業を合同で行い、各種体育大会に向け、チームワーク力を高める。また、ほ場・施設は作付・利用計画に沿って適切に利用管理する。	B
	外部組織・関係機関との情報交換・連携を密に行うとともに、学生への情報提供を積極的に行い、進路指導の充実を図る。	県新規就農相談センターやハローワーク等から農業法人や農業関連企業の情報を収集し、掲示や口頭で学生に周知している。農業関連分野に進む学生は多い。今後、農業法人への就業も含め就農を促進する、外部組織・関係機関との一層の連携を図るとともに、進路指導体制を充実する。	農大OB、県農業法人協会、農家体験実習先等の協力も得ながら、就業先の掘り起こしを進める。また、進路指導体制を整備し、役割分担の明確化を図る。	B
学校建設後40年が経過し、老朽化が激しいため、建物の改修・農業機械の更新を進める。	本校の校舎等の建設は昭和46年度であり、一部老朽化している。耐震工事は、診断の結果、本館を平成22年度に改修しており、寮は耐震性能が確保されている状態である。食堂はJAの施設を利用しているが、今年度、耐震工事がなされ、県としても応分の負担をしている。また、農業機械器具は耐用年数を経過したものが多く更新が進んでいない状況である。なお、危険箇所の修繕や学習に直接影響する機械器具の修理等については、限られた予算の範囲内において優先的に執行しているところである。	県の財政状況の厳しい中において、建物の大規模な改修や大型農業機械の更新・新規導入はなかなか難しい状況ではあるが、引き続き予算要求するとともに、限られた予算を工夫しながら、効率的な予算執行に努める必要がある。なお、懸念であった寮の浴槽の濾過装置設置工事が平成24年度予算で認められ執行予定である。	C	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策	評価
教育活動	学習指導	授業実習内容の充実を図る	1,2年生が連携した授業・実習ができたか。	1,2年生相互の学習効果を高めるため、体育や専攻実習等の授業時間の一部を合わせたが、可能な限り更なる連携を進める。	1,2年のチームワーク力を高めるよう体育の合同授業を増やす。	B
			学力の差に応じた授業を実施することができ、全体の学力向上が図れたか。	基礎学力に差があるが、数学、英語でクラス分けした授業を実施した。これ以外については十分実施できていない。	国語力や農業基礎知識を高め、学習意欲を喚起する特別授業を実施する。	C
			わかりやすい授業が実現できたか。	わかりやすい授業とするため、実物、スライド、動画や図表等を活用しているが、更なる努力が望まれる。	研修会等を活用し、授業方法の改善を図る。	B
			教授要目に基づいた授業展開ができたか。	教授要目に沿った授業ができた。また、新しい理論や技術、農業情勢等の盛り込みに努力した。		A
			プロジェクト学習は学生の自主性・主体性が発揮できたか。	プロジェクトの課題設定や実施について学生が自主的・主体的に取り組むよう指導助言したが、一部に自主性・主体性に欠ける学生がいた。	1年生のプロジェクト学習への関心を高めるため、専攻実習等の時間を活用し、早い時期から2年生のプロジェクト学習の取り組み状況を観せる。	B
			各種資格試験や検定試験を奨励し、学生の学習意欲を高められたか。	毒物劇物取扱、危険物取扱や車両運転等技能資格など実用性の高い資格への受験意欲は高いが、一部に合格率の低い資格があった。制度が始まって日が浅く社会的認知度が低いと思われる日本農業技術検定は掲示やホームルームで周知したが、受験意欲を喚起できなかった。	合格率の低い毒物劇物等は特別講義で補講を実施し、合格率の向上を図る。他学生の前で合格証を交付するなどし、学習意欲を高める。	B
	農場拡大に伴う管理計画の見直しを行う		1,2年生合同の実習など、キャンパス統合に伴うメリットを生かした授業が実施できたか。	専攻実習等の時間を合同で実施できた。		A
			農場拡大に併せた無駄のない作付け配分・作業配分ができたか。	フル活用に努めたが、一部草刈り等の環境整備が追いつかない箇所も発生した。	適正規模以上の作付けはしない。	B
			各コース別の年間作付け計画に沿った農場管理ができたか。	作付け計画以上の面積を管理したコースもあった。		A
			学生主体とした休日の農場管理を実行できたか。	学生主体で実行できた。		A
	進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図る	個別面談や個人指導を行い、進路決定及び実現のために適切な支援ができていたか。	1年は10月、2年は4月に保護者を交えた3者面談を実施した。また、コース担任や学科主任が随時、学生個々の相談に乗るとともに、就職や進学希望者を対象に、応募書類の添削や面接指導等を実施した。学生のプライバシーに配慮した相談環境の整備が望まれる。	プライバシーに配慮し個別面談等ができる部屋を確保する。	B
			定期的に進路希望や活動状況を把握できたか。	2年生を対象に毎月1回程度、進路活動状況を調査し、指導の参考とした。		A
進路実現のための授業等を計画的に実施できたか。			就職、就農希望者に対し、若年者就業サポートセンターの専門家等による職業興味検査等の自己分析、面接や履歴書作成等の実践的な授業を実施した。意欲の低い一部の学生の支援に苦慮している。	ハローワークや若年者就業サポートセンター等専門機関との一層の連携を進める。	B	
就職・進学情報の提供		学内掲示板、ホームルームなどを活用した求人情報の提供がなされているか。	農業関連の企業や農業法人の求人情報をインターネットや電話等で随時収集し、掲示板やホームルーム等で周知している。		A	
		学生自らインターネットで情報を得られるよう、設備を充実できたか。	学生寮にインターネット検索できるパソコン8台、プリンター2台が設置済みであり、本年度は図書室にパソコン1台、プリンター複合機1台を設置した。		A	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策	評価
生活指導	生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成に努める。	・HRや交通・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。	交通安全講習会、救急救命講習会、健康講座など意識を高めることはできた。しかし一部の学生においては、交通違反、交通事故を起こしたり、寮内での駐車場所を守らないなど社会的マナーを意識しない学生も無くならない。	学生自主的な運営により自分の事としての意識を高める必要がある。 意識向上のための研修を行う。 学生自ら生活全般について責任を取る体制が必要である(学校依存体質改善)。	B	
			・寮生活や自治会活動を通して、集団生活や社会における自分の役割など、社会人としての心構えを学ばせることができたか。	自治会活動により寮運営の役割分担ができそれぞれ部長等を中心に寮運営の活動を行うことが出来てきた。また集団生活は、農大生としての一体感ある程度醸成できた。しかしながら一部には朝食をとらない、消灯時間を守らず夜中まで騒いでいる学生など学習するという意識が希薄な者もいる。	一般社会人としての自覚を持たせるための研修を外部講師等を招いて行う。 点呼、就寝、起床、清掃など上手くできていないので、自治会活動を通じてより一層のきめ細かな指導が必要である。	B
		・1年生と2年生を同室とし、先輩・後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。	1、2年生同室にしたことにより、先輩・後輩の交流が深まりお互いを尊重する事が出来るようになった。だが、先輩の持つ悪い面も現れる場合もある。(遅刻、授業、清掃のさぼり等) 当初は、なかなか寮に馴染めず精神的に情緒不安定になる学生も一部はいるが、自治会活動の中で徐々に慣れさせてきている。	意欲有る学生の足を引っ張る学生の処分も含めた適時、適切な指導を強化する。 必要に応じてスクールカウンセラーを利活用する。	B	
	教育設備の充実	農業機械や施設機器の充実	・予定された農作業に必要な機械・設備は充分確保されているか。	台数やハウスの棟数等は確保されているものの、老朽化が目立ち、故障が頻発し農業実習やプロジェクト活動の一部に遅れが生じた。	更新や修繕のための予算措置が必要である。	C
			・試験場移転、キャンパス統合後の農業機械・施設機器の適切な管理運営は行われているか。	ほぼ適切な管理運営が出来た。	引き続き適切な管理運営に努める。	B
			・試験場から移管されたハウスの維持管理は充分に行われているか。	適正な管理と有効利用に努めた。	利用にメリハリをつけ、効率的な維持管理に努める。	B
・試験場から移管された実習棟・機械庫等は利用計画に沿って整備・利用されているか。			よく整備されている。		A	
学校用地や施設の適切な維持管理。		・農場以外の学校用地や施設の維持管理が適切に行われているか。 ・校舎・寮の耐震工事や老朽化の点検整備は行われたか。	よく整備されている。 常に点検整備を行っている。なお、校舎耐震工事はH22実施済みであり、寮は、耐震性能を確保している。	A A		
学校運営	学生確保の活動	農業高校を対象に大学校の理解を求める	・農業高校からの進学が伸び悩んでいる状況にあるため、あらゆる機会を通して情報を提供できたか。	本校主催の農業高校進路指導担当教諭会議、県高校長会農業部会主催の会議に出席し情報交換を行った。	出身校に入学生の近況を知らせる。 公開授業により理解を深めていくことも検討する。	B
		学生募集のPRを更に充実する	・学生募集・オープンキャンパスのポスターを作成・配布し、農業大学校の関心を高めることができたか。	県内高校及び県外の入学実績のある高校に募集案内・ポスターを配布した。 オープンキャンパスの参加者が前年を上回った。		A
			・県内高校への訪問活動を行い、進路担当教諭の理解を深めると共に、生徒の必要なアドバイスができるよう情報提供を行ったか。	職員が分担し県内高校60校を訪問し進路担当教諭等との情報交換を実施した。 また、各高校で開催される進路ガイダンス(民間企業主催)に参加した。		A
		ホームページの充実を図る	・入試案内等適時に、行事等を写真で紹介するなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。	学校行事等積極的に情報提供をした。 また、本年度から入学願書をHPからダウンロードできるようにし、成果はあった。		A
	その他	予算執行の適正化を図る	・計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場はコース別に、管理運営は費目別に執行状況を管理できたか。	校内予算委員会を設置し、予算執行について予算執行担当者との連携を図り、計画的執行に努めた。		A